

宮沢貞雄氏は、某国立大学応用化学課を出て東芝に就職し、すぐブラジルに現地指導員として渡り、そのままブラジルが気に入りブラジル日系社会の一員になっている方です。

彼は以前から鍼灸に関心があり、免許は持っていましたが仕事に追われる毎日だったそうです。あるとき友人から薦められた本（『鍼灸臨床わが三十年の軌跡』）で長野式治療を知り、自分で少しずつ勉強していたといいます。そんな時、国際協力事業団を通じて1ヵ月間、当院で研修する機会があり、その成果をまとめたのが次の症例です。

当院に来るまでは脉状を教えてくれる人もおらず、全くわかっていなかったのですが、毎日問題意識を持って繰り返し脉状を診ることによって少しずつ体得していきました。治療も長野式治療システムを忠実に運用しています（彼は現在、開業しています）。

## イライラ、頭痛（宮沢貞雄氏症例1）

日系女性 マリーナ 五九歳

主訴 神経質でいつもイライラ、毎日頭痛あり。

随伴症 花粉症あり。

所見 「細・緊・数」、胃の気弱い、両天枢（+）、行間（+）、大都（+）、労宮右（やや+）。

治療 ①「扁桃処置」（復溜・手三里・大椎・天牖）、  
②「中封・曲泉」（+）→（-）、  
③「陰陵泉」（+）→（-）、  
④「中腕・関元」、  
⑤「胃の気3点」（緊からやや軟らかくなる）、

伏臥位①「委中・飛陽・崑崙」、

②「大腸俞・腰俞」、

③「脊柱起立筋」、

④「两会陽」、

⑤「帯脈」、

⑥「天柱・風池」、

⑦「肩外俞・魄戶・膏肓」。

約1時間かかる。患者さんすごくスッキリし楽になったと喜ぶ。

経過 二回目（九日後）、すごく調子がよい、頭痛なし。旦那に「お前変わったな」と喜ばれる。

「細・緊・数」。「大巨・中注」（+）、「行間」（+）。以前よりは圧痛少ない。

治療は前回とほぼ同じ。+「瘀血処置」、+「花粉症のネーブル四点」と皮内鍼固定。術後、すごく気持ちよいと。

三回目（二十日後）。あれから頭痛なし。花粉症もどうもなくなったようだという。その後来院なし。その後旦那さんが治療に来て、あれ以来体調がいいという。